

東京オリンピック・パラリンピックと合わせた取組（案）

1. 目的

- ・2019年3月策定の「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク全体構想」では、生態系ネットワークの「地域・人づくり」に関する短期目標（達成年 2020年）の一つに、「コウノトリ・ツル類の生息を活かした産業振興（農業、観光等）に向け、基盤整備や人材養成等の様々な取組に着手し、東京オリンピック・パラリンピック等でアピールできる地域資源とする」が掲げられている。
- ・2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けては、徳島県とドイツ柔道代表選手団との間で、2019年1月に協定が締結され、鳴門市のソイジョイ武道館で事前キャンプを行う予定となっており、県内・市内でのレセプションや住民との交流機会が検討されている。
- ・そこで、ドイツ柔道代表選手や来訪する関係者、さらには県民・市民に広く情報発信することを狙いとし、鳴門市でのドイツ柔道代表の事前キャンプに合わせ、コウノトリや生態系ネットワークの取組に関するパネル展を行う。

2. 実施概要

(1) 実施時期

ドイツ代表選手団が事前キャンプで鳴門市に滞在する時期（2020年7月頃）

(2) 実施が想定される施設

- ・ドイツ代表選手が集まる施設（例えば練習会場等）
- ・「鳴門市ドイツ館」等

(3) 展示内容

ドイツでは、日本のコウノトリの近縁種である、ヨーロッパコウノトリ（シュバシコウ）が生息し、幸福を運ぶ縁起のよい鳥として親しまれ、保護する取組が行われている。そこで、一般の方にも関心を持って展示物を見てもらえるよう、両国のコウノトリの写真を中心に、両種の違いや生息状況を解説するパネル、吉野川流域での取組について紹介するパネルを展示する。

- ・鳴門市とドイツのコウノトリの写真及び解説パネル（各5点程度＋解説パネル各1枚程度）
- ・吉野川流域の生態系ネットワーク形成の取組説明パネル（生息環境づくりと地域・人づくりに関する取組紹介 3-4枚程度）

※制作物は、翌年5月に控える「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」等、他の情報発信の機会にも活用できるように日本語・英語（またはドイツ語）での表示とする



斐伊川流域での生態系ネットワークの取組のパネル展示
（斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に
生きる流域づくり検討協議会）



関東地方での生態系ネットワークの取組のパネル展示
（関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会）

3. 調整事項

- ・展示を実施する施設、スペースの確保

- ・展示に使用するコウノトリの写真、パネルの確保

※展示物は練習会場等で使用後に、「鳴門市ドイツ館」等でも使用することを想定。

※鳴門のコウノトリの写真は、地域の方が撮影された写真の使用を想定。

※ドイツのヨーロッパコウノトリ（シュバシコウ）の写真は、（公財）日本生態系協会が所蔵する写真の使用を想定。

参考：ドイツのヨーロッパコウノトリの写真【（公財）日本生態系協会所蔵】

